

## ふれあい懇談会会議録（令和元年1回目）

団体名 NPO法人はらまちクラブ  
開催日 令和元年5月20日（月）  
時間 14時00分～15時30分  
場所 南相馬元気モール（南相馬ジャスモール内）  
参加者 団体関係者19名  
市長、健康福祉部次長、スポーツ推進課長、秘書課長、秘書課広報広聴係長、  
秘書課広報広聴係員

### 1. 開会のあいさつ（NPO法人はらまちクラブ理事長）

### 2. 市長のあいさつ（南相馬市長）

当市においては、広報広聴の手段として、市民説明会と、各団体と個別に実施するふれあい懇談会の2種類の制度を策定しています。行政においては、ただ業務を遂行するだけではなく、遂行した結果を市民に説明すること、またそこから課題事項を拾い上げることが非常に重要となります。これらの流れが確立している自治体は恐らく無いのではと思います。震災直後のように、説明会を開催すれば、黙って30人規模となることは少なくなってきましたので、本日は、皆様から直接ご意見を賜りたいと考えております。

### 3. 事業紹介

- (1) 「イオン・ジャスモ歩いて富士山登頂」事業報告
- (2) 世界の果てまでイッテQのCMについて
- (3) 小高交流センターを核としたみんなの元気づくり
- (4) ビーチバレーを核としたニュースポーツ・スポットの創造
- (5) 平成28・29・30年度「心のふり幅テスト」アンケート結果報告
- (6) ハッピーエンドセルフデザインについて
- (7) 参加者自己紹介

### 4. 懇談会

#### (1) 南相馬市未来予想図について（南相馬市長）

南相馬市を「ロボットが息づくまち」、「ロボットが活躍するまち」とするために活用できるものとして、ロボットテストフィールドがあげられる。

様々な事業者がロボットやドローンのテストを行いたいと思っても、他自治体では法規制等の問題があって実施できない。しかし、南相馬市においてはロボットテストフィールドを利活用することで、市民の理解を得ながら、チャレンジすることができる。

ロボットテストフィールドでチャレンジした成果や技術を、いち早く市民生活に活かしていくことにより、地域の抱える様々な課題（人口減少・高齢化、高齢者の足の確保、コミュニティ活性化など）を解決できると期待している。

子供の出生数が減少している昨今、昔の人口に戻すことは非常に難しく、「安心して暮らせるまちづくり（人口が減少したとしても、現在市内で生活している人々が安心して楽しく過ごせるまちをつくる）」という目標に向かって歩みを進めていかなければならない。

お年寄りにも活躍してもらい、生きがいを持って生活してもらうことが重要。

例えば子供が3人いる世帯であれば、将来的に1人ぐらいは地元に戻ってきたいと思わせるまちづくりを進めていきたい。

#### (2) 質問事項

別紙. 質問事項一覧参照

#### (3) 参加者所感

### 5. 閉会

## ふれあい懇談会質問事項一覧（令和元年1回目）

団体名：NPO法人はらまちクラブ

No.	質問事項	回答事項
1	人口減少、生産年齢人口の減少、少子高齢が進んでおり、その対策や働き手の確保、東京やいわきにいく足の確保が必要となってくる。	イノベーションコースト構想やロボットテストフィールドの更なる利活用に向けて、国に対してアクセス道路、小高IC、JRの再開など様々な要望を行っているところである。引き続き、これらの施策に取り組んでいく。
2	機能できていない行政区の再編が必要。	コミュニティの再生については、座談会を開催する予定です。高齢者が支えあうために、どのようにコミュニティに参加していくべきかということを議題とする予定。その中で、草刈や、足の確保についても話が出ると思われるので、その中でヒントをとらえていきたい。
3	外部から来ている人が隣組に加入せず、隣組の存続が危惧される。	
4	お年寄りの元気のため、土、畑をいじれるようにしてほしい。	
5	シャッター商店街を活性化できないのか。	
6	三区の関係が仲良くない。	
7	高齢者の足の確保が重要である。これは地域の課題である。	震災のせいだけではなく、三区の中でそれぞれの不満が大きくなってきている。それぞれの不満を解消し、地域・特性を尊重する（活かす）方法を模索していく。
8	公共施設については、ランニングコストなど多くの税金を払うこととなるのではないか。	みなタク（予約制の乗合タクシー）を実施しているが、現状、運転手が少ない。こちらを進めていくと、最終的に路線・循環バスは維持できなくなる。しばらくは、みなタクを拡充していく方針。
9	市庁舎を外部に建てて、新しい町を作る（提案）	
10	体験型の野馬追ミュージアムを作ってみてはどうか（提案）	
11	医療、介護、病院など、医療人材が回る仕組みが必要。	
		理想は理想として進めていきたい。医療人材の確保等について、現実には厳しいですが、理想は理想として諦めずに取り組んでいきたい。